

坂出ニューポートプラン(中間とりまとめ)(案)の概要

四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所
坂出市

1. 坂出ニューポートプラン(案)(計画の目的・検討の進め方)

■目的・位置づけ

- 坂出港は、瀬戸内海における海上交通の要衝として栄え、香川県の工業と坂出市の発展に大きく貢献。一方で、サプライチェーンのグローバル化や国内生産拠点の統廃合、我が国へのクルーズ船寄港の拡大など坂出港を取り巻く環境が大きく変化。
- 坂出ニューポートプランは、坂出港の競争力を向上させるとともに、地域住民やクルーズ旅客等が快適で利用しやすい港づくりを推進するために、坂出港の課題や今後のあり方について検討し、今後10年間に取り組むべき方向性を取りまとめたもの。

■検討会議 構成委員

有識者

- ・(一財)みなと総合研究財団 理事長
- ・香川大学経済学部 教授
- ・香川高等専門学校 准教授

坂出港関係者

- ・四国経済連合会
- ・香川県観光協会
- ・香川県倉庫協会
- ・(一社)香川県トラック協会
- ・坂出商工会議所
- ・坂出港振興協会
- ・坂出港運協会
- ・坂出港輸入食糧誘致協議会
- ・香廬倶楽部
- ・番の州六社会

行政機関

- ・坂出海上保安署
- ・四国運輸局
- ・四国経済産業局
- ・香川県【事務局】
- ・四国地方整備局
- ・坂出市

■坂出ニューポートプランの進め方・スケジュール

平成29年8月3日 第1回検討会議

坂出港の利用促進に向けた現状と課題の整理

平成29年12月25日 第2回検討会議

第1回検討会議での意見を踏まえた課題への対応策の検討

「坂出ニューポートプラン(素案)の概要」の提示

平成30年12月 第3回検討会議

第2回検討会議での意見を踏まえた「中間とりまとめ(案)」の提示

坂出ニューポートプラン(中間とりまとめ)の公表

ニューポートプラン運動

企業と連携して取り組み進めていくために、呼び掛け・意見交換等を実施

アンケート調査

定期RORO航路等の具体的なニーズ把握のため、香川県内企業にアンケート調査を実施

平成31年6月頃(予定) 第4回検討会議

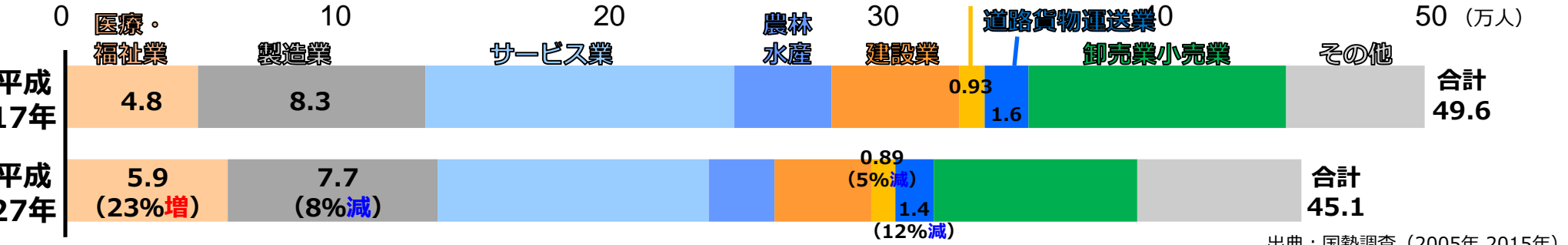
坂出ニューポートプラン(初版)を取りまとめる

2. 坂出港の現況(①人口・就業者数、臨海部産業)

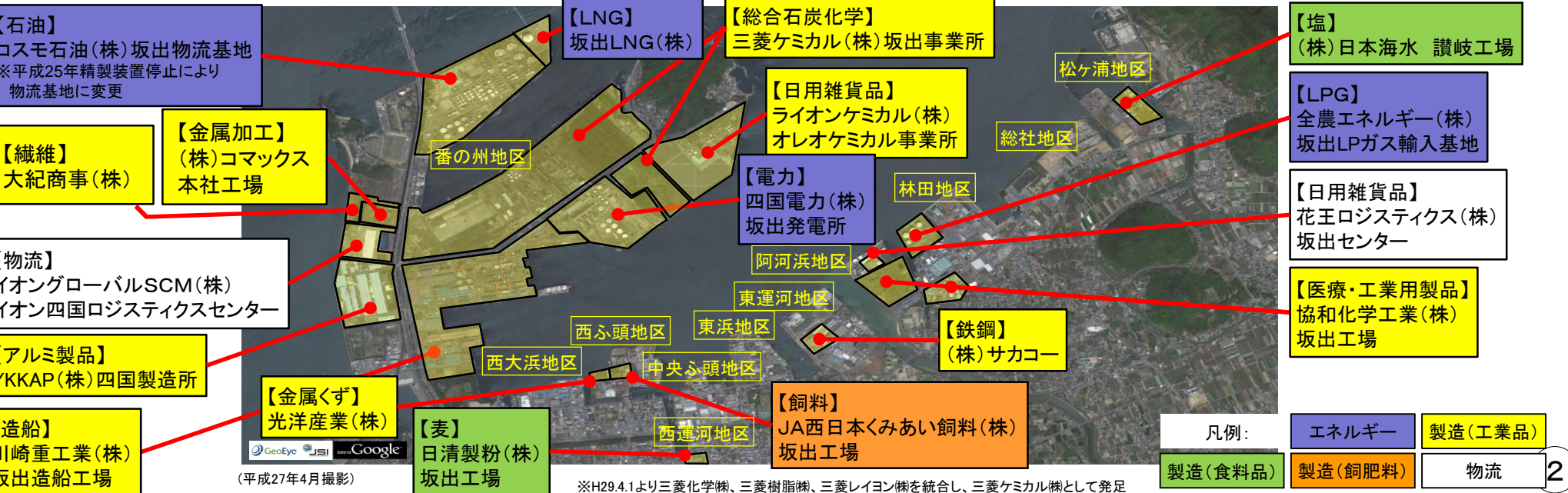
○坂出市の人口は、昭和50年頃をピークに減少傾向にあり、今後も減少傾向が続くと予測されている。また、香川県の就業者数は、平成17年時点の49.6万人から、平成27年時点で45.1万人へと約4.5万人減少し、業種別では、医療・福祉業関係で約23%増加している一方で、製造業や運輸業、道路貨物運送業等は減少。

○坂出港背後には四国経済を支える企業が多く立地。具体的には、石炭化学、造船などの重化学工業やエネルギー関連企業、鉄鋼業、穀物サイロなどの企業が立地。そのため、坂出市は、昼間人口が夜間人口より高く、県内の重要な就業地として機能。

■香川県における就業者数の推移



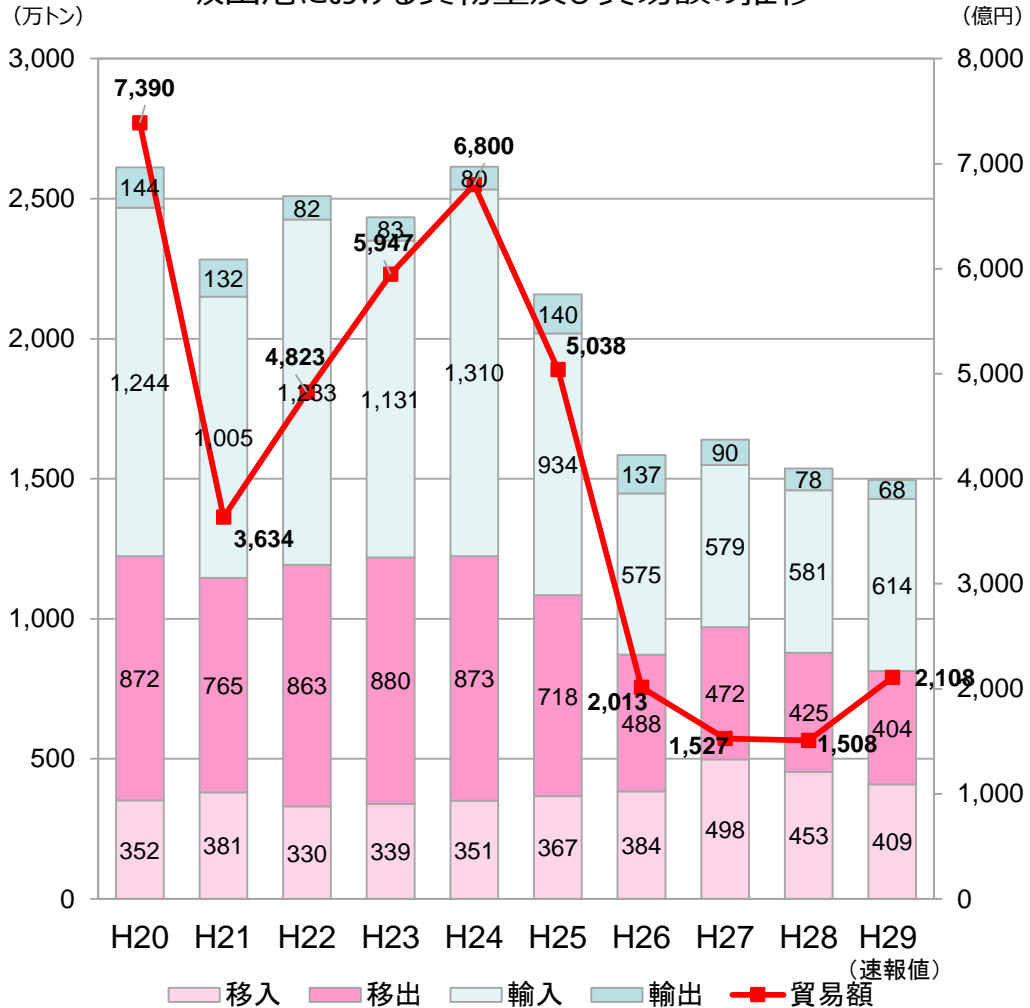
■坂出港における立地企業



2. 坂出港の現況(②港湾取扱貨物・貿易額)

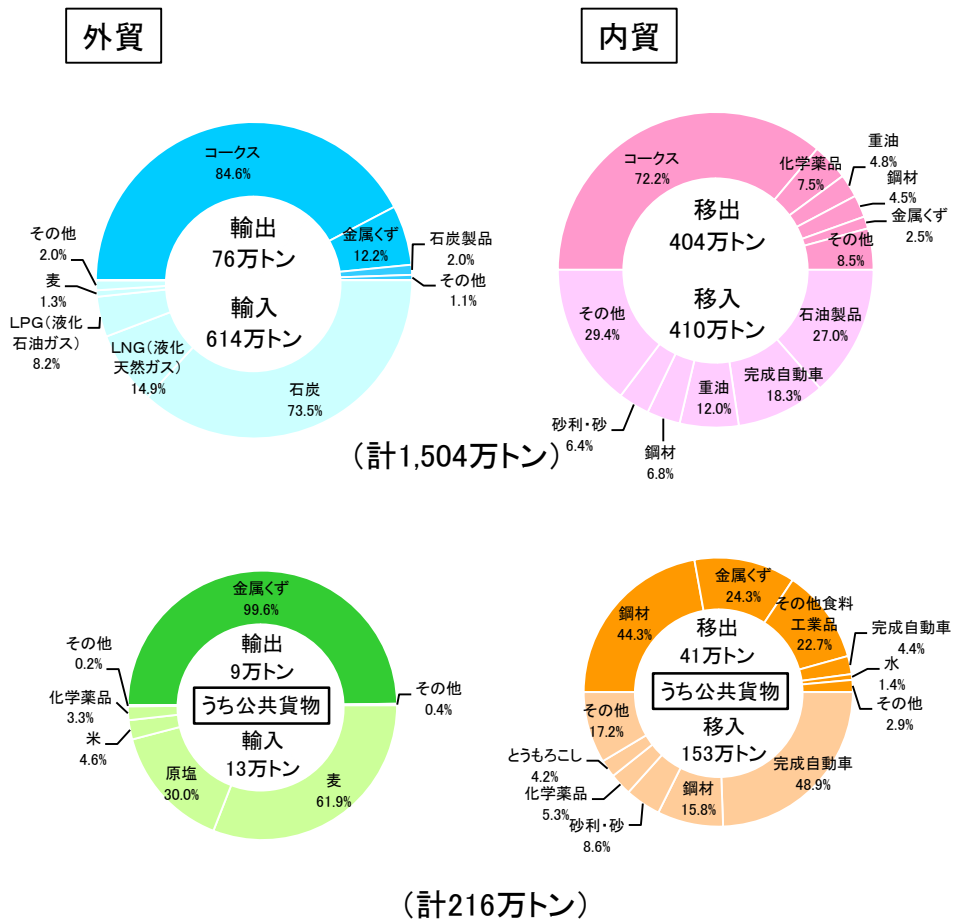
○坂出港の港湾取扱貨物量は、平成24年までは増加基調で推移してきたが、平成25年にコスモ石油が製油機能を停止した影響等により、平成25年以降に大きく減少。
 ○取扱品目は、外貿・内貿ともに、石油や石炭等のエネルギー系の貨物が多い。

坂出港における貨物量及び貿易額の推移



坂出港における貨物の品目別内訳 (H29年速報値)

※四捨五入の関係で合計は100%にならない



※出典: 貿易額は貿易統計、貨物量は港湾統計及び四国地方整備局調べ

2. 坂出港の現況(③入港船舶の状況(公共岸壁))

- 林田地区 A 号岸壁、中央ふ頭地区 1 号岸壁において、麦を輸入する大型船が寄港。平成27年からの3年間では、両岸壁ともに3万 DWT級を越える船舶が入港しており、中央ふ頭においては、喫水調整等の非効率な輸送が行われている。
- また、特に林田地区 B 号岸壁の利用率は高く、平成29年はPCCを中心として年間で576隻が利用。PCCは1日に3隻寄港することもあり、林田 A 号岸壁、B 号岸壁の利用状況により、滞船が発生する場合がある。

■ 公共岸壁への大型船の寄港状況 (平成25年～29年)

中央ふ頭 1 号岸壁 (-10m)		
40,000～	DWT	0
30,000～40,000	DWT	19
～30,000	DWT	7
最大船舶	-載貨重量トン数 -満載喫水	38,566 DWT 10.5 m

林田 A 号岸壁 (-12m)		
40,000～	DWT	4
30,000～40,000	DWT	18
～30,000	DWT	4
最大船舶	-載貨重量トン数 -満載喫水	56,589 DWT 12.5 m

豪州からの麦輸入船は西日本の港湾に複数寄港。
通常ルート：博多→坂出→神戸
喫水調整ルート：博多→神戸→坂出
 ※中央ふ頭の場合、喫水調整のため、非効率なルートとなる場合がある

■ 公共岸壁の過密利用の例 (平成29年11月21日～28日)

林田地区	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
21日 (火)	A 号岸壁														
	B 号岸壁			PCC(2,988GT) 9:15 10:50				PCC(3,990GT) 13:54 14:45		15:48				外航貨物船 (23,226GT)	
22日 (水)	A 号岸壁	外航貨物船 (23,226GT)													
	B 号岸壁	PCC(4,993GT) 8:00 10:20											PCC(3,206GT) 18:25 20:30		
23日 (木)	A 号岸壁	外航貨物船 (23,226GT)													
	B 号岸壁	PCC(2,926GT) 8:40 10:05											PCC(4,898GT) 18:24 19:54		
24日 (金)	A 号岸壁	外航貨物船 (23,226GT)													
	B 号岸壁	7:10 7:30			内航貨物船(499GT)									19:00 18:50	PCC(3,206GT) 21:30
25日 (土)	A 号岸壁	6:50													15:15
	B 号岸壁	PCC(10,109GT) 6:30 8:40			PCC(2,992GT) 9:40 12:10										PCC(3,990GT) 16:00 16:45
26日 (日)	A 号岸壁														14:25
	B 号岸壁		PCC(4,993GT) 8:00												11:55
27日 (月)	A 号岸壁	外航貨物船 (23,226GT)													
	B 号岸壁														PCC(3,206GT) 17:40 20:30
28日 (火)	A 号岸壁	6:50			PCC(2,988GT) 8:55										11:55
	B 号岸壁	PCC(11,514GT) 7:20 9:00													



林田 B 号岸壁 (-7.5m) への PCC 等の寄港状況(平成29年)		
10,000～	GT	177
1,000～10,000	GT	351
～1,000	GT	70(22)
最大船舶	-総トン数 -満載喫水 -全長	12,801 GT 6.5 m 165.0 m

※括弧内は着岸数のうち、不荷役の回数

2. 坂出港の現況(⑤坂出港背後の道路網)

- 坂出市は高速道路網の要衝であり、瀬戸大橋により本州と四国とを結ぶ瀬戸中央自動車道と四国 8 の字ネットワークの一部である四国横断自動車道（高松自動車道）との結節点となっている。
- また、現在は坂出北 I C のフルインター化に向けた事業が平成36年完成を目標に実施されている。フルインター化に伴い、さぬき浜街道沿いの工業地帯を中心に、海上・陸上輸送の連携・選択肢が広がり、利便性の向上が期待される。

四国8の字ネットワークの整備状況

計画予定延長.....約810km
 開 通.....約575km(約71%)
 事 業 中.....約115km(約14%)



■■■■■ 事業実施区間

——— 8の字ネットワーク（供用/暫定供用含む）

○○○ 8の字ネットワーク（計画・予定）

——— その他高規格道路ネットワーク



■ 物流施設

■ 特定工場

↔ 整備後の交通流動

◆◆◆ 現況のアクセスルート

◆◆◆ 整備後のアクセスルート

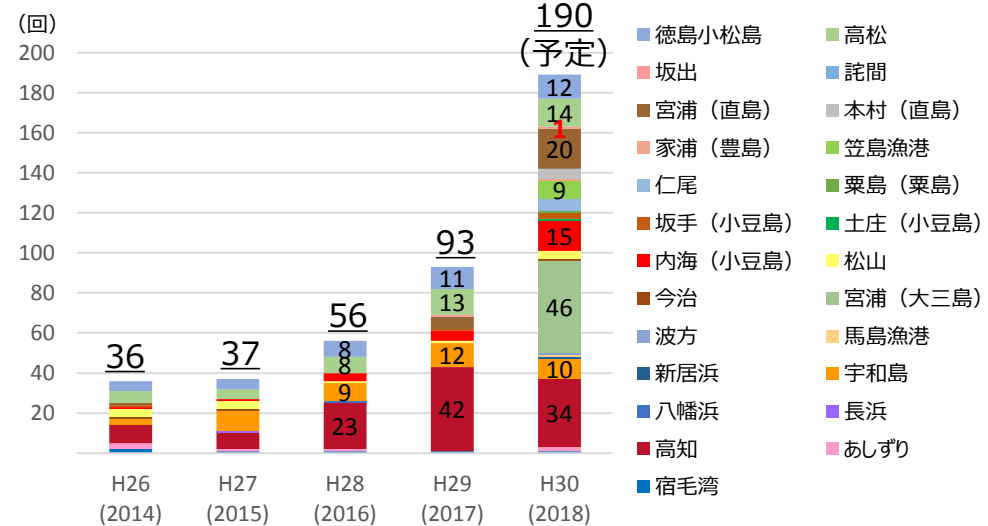
臨海エリア*

*物流拠点などが比較的集中している臨海部のエリア

2. 坂出港の現況(⑥クルーズ船の寄港状況)

- 近年、我が国港湾へのクルーズ船寄港が増加しており、四国の港湾においてもクルーズ船の寄港が急増。平成29年は93回で過去最高。坂出港へのクルーズ船の寄港回数は平成22年以降で4回(平成22年:飛鳥II、平成24年:ふじ丸、平成29、30年:にっぽん丸)。
- 平成29年には「四国における瀬戸内海クルーズ振興検討会」において、高松港・坂出港等をモデルとした、クルーズ船寄港拡大に向けた課題の整理やその対応策の検討を踏まえた、提言書がまとめられた。
- 平成30年5月の「にっぽん丸」寄港時のオプションツアーの行き先は市外が大部分を占め、市内での消費は限定的な状況。

■ 四国のクルーズ船寄港回数の推移 (外国船社と日本船社の合計)



■ 高松港及び坂出港へのクルーズ船寄港促進に向けて*

- ① 備讃瀬戸東航路における巨大船の夜間航行規制等の制約を前提に、誘致活動を行うこと。
夜間航行規制のない小型船(ラグジュアリー船)については、積極的な誘致を図ること。
- ② 坂出港においては、大型クルーズ船の寄港に向け、坂出市が港湾施設の改良を検討するとともに、港湾貨物と競合する際には、関係者による円滑な調整を図ること。
クルーズ船の寄港促進のため、官民が連携して、おもてなしの一層の充実や寄港地での旅行、買い物、食事など、地元の受入環境を整えるための推進体制を構築すること。
- ③ 高松港・坂出港の連携をはじめ、瀬戸内海各港で連携体制の充実を図り、クルーズ船寄港要請の「お断りゼロ」を目指すこと。

■ 坂出港ににっぽん丸寄港 (平成30年5月26日)



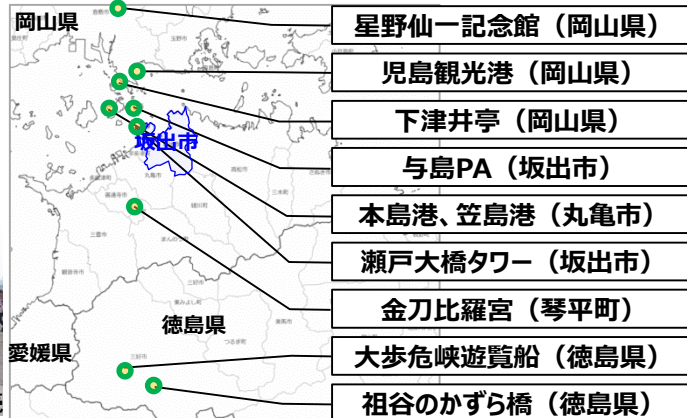
【ツアー日程】
5/24(木)名古屋発
5/25(金)土佐清水
5/26(土)坂出
5/27(日)名古屋着

【船舶諸元】
総トン数…22,472t
全長…166.65m
喫水…6.56m
乗船人数…392人



「鴨川福神太鼓」でお出迎え 坂出ブランド等のお土産の販売

■ オプションツアーの行き先



※提言書のうち坂出港関連部分のみを抜粋

■ クルーズ船社の声

坂出港内は航路が直線となっており、また船舶の輻輳が少ないため、港内航行がし易い。

■ 問題点

県内外各地へのアクセスが良いことで、市外へのオプションツアーが組み込まれてしまう。

2. 坂出港の現況(⑦賑わい・交流拠点)

- 坂出港の背後には、瀬戸大橋記念公園や、東山魁夷せとうち美術館など、観光資源、賑わい拠点が多数点在。また、年間を通じイベントが開催されている。
- 平成30年は坂出港開港70周年及び瀬戸大橋開通30周年の節目の年であり、多数のイベント開催。具体的には、巡視船艇によるクルージングや約6万人が来場した海上花火大会を坂出港立地企業や海上保安庁の協力のもと実施し、多くの参加者で賑わった。



■ さかいで塩まつり (5月)



メガ塩滑り台

■ 親子・市民クルージング (7月)



瀬戸大橋を見上げる

■ 坂出海上花火大会 (8月)



岸壁背後の荷さばき地の活用

2. 坂出港の現況(⑧港湾施設等の老朽化)

- 坂出港の公共岸壁は、建設後40年以上が経過し、点検・診断により老朽化が進行しているものも確認されている。また、中央ふ頭地区や西ふ頭地区においては、サイロや倉庫についても同様に建設後40年以上が経過した施設が多い。
- 岸壁等の主要施設の維持管理計画書は策定されており、中央埠頭2号岸壁・4号岸壁は老朽化対策事業を実施中。



3. 坂出港の課題及び目指すべき将来像(案)

坂出港の課題

- 港湾機能の強化
- 臨海部の有効活用
 - ・人口減少、高齢化が一層進展し、**製造業・運輸業等の坂出市産業の人手不足の懸念**
 - ・企業の生産性等の向上につながる**港湾の機能強化や臨海部の有効活用方策の検討が必要**
- 賑わい・交流拠点の創出
 - ・物流・産業面での発展は、**市民に対しては「みなと」との距離を生じさせた可能性**
 - ・「**海辺で遊ぶような場所が少ない。**」、「**市内の観光地があまり知られていない**」といった指摘も。
- クルーズ船誘致への対応
 - ・瀬戸内海周辺港と比較して、**寄港回数が少ない。**
 - ・クルーズ旅客の消費を取り込む等、**クルーズ振興を通じた地域の活性化を図る必要。**
- 南海トラフ等大規模地震・津波への対応
 - ・**南海トラフ地震の切迫性の増大**（今後30年以内に70～80%の確率で発生と予測）
- 港湾施設の老朽化対策
 - ・主要な施設で建設後40年以上が経過するなど施設の**老朽化は着実に進展**

目指す将来像

- 背後圏企業の成長を支える競争力・利便性の高い坂出港
- 環境に配慮したエネルギー拠点としての坂出港
- 市民が集い、クルーズ船や観光客を呼び込む魅力ある坂出港
- 大規模地震等に対応した安全・安心な坂出港

取組の方向性

- ① 坂出港の物流機能強化に資する新たな定期航路の誘致
- ② 物流・生産拠点としての更なる港湾の機能強化に向けたふ頭の再編
- ③ 臨海部を有効活用した港湾空間の機能向上
- ④ 坂出港及び瀬戸内海の魅力を生かしたクルーズ船誘致
- ⑤ 坂出港が有する資源を活用した賑わい・交流拠点の創出
- ⑥ 四国の防災拠点港としての機能強化

将来像の具現化のための推進体制

- ・ 近隣港湾との連携・役割分担
- ・ 坂出港の振興・発展を継続的に検討する組織の設置